

Club Homepage URL <http://rid2510.org/otarusouth/>

●例会場/ニュー三幸 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500



●2014-2015年度RIテーマ
LIGHT up ROTARY

ゲイリーC.K.ホアンRI会長

●第2510地区重点目標
 RIテーマ「ロータリーに輝きを」を推進しよう

**55年の歴史の蓄積の上に乗って
 ロータリーにさらなる輝きを**

●再来週 2月20日 金のプログラム

◎第55回小樽市内高校優秀卒業生表彰式

●来週 2月13日 金のプログラム

◎創立55周年記念例会(夫人同伴夜間例会)

点鐘:17:00 場所:グランドパーク小樽5階

●今週 2月6日 金のプログラム

◎「小樽北運河の魅力と潜在力」

スピーカー:斎藤 仁氏
 (浅草橋オールディーズナイト実行委員会委員長・小樽南RC)

29

通巻 第2685号
 2015年2月6日発行

1960年創立
 昭和35年2月5日

●第28回例会報告 1月30日 金の「ロータリーの情報発信力」 スピーカー:杉江俊太郎氏 (RI第2510地区広報委員会委員長・小樽RC)

■ロータリーソング ■ 「それでこそロータリー」

■ゲスト・ビジターの紹介 ■

杉江俊太郎氏 (RI第2510地区広報委員会委員長・小樽RC)
 遠藤友紀雄氏 (小樽RC)

■再入会員の紹介 ■ 富永会員

・この度創立半世紀以上の歴史ある小樽南RCに入会ご承認をいただき有難ございます。再入会ですが今後ともロータリアンとして皆さま方とともに歩んで参りたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。



■会長報告 ■ 加藤会長

・来る2月13日には創立55周年記念例会。28日には3クラブ合同例会と何かと行事が重なりますが、会員皆さま方には格別のご協力のほどお願いいたします。



・各テーブルに節分の福豆を置いてあります。会員であります潮見ヶ岡神社本間清治宮司よりご寄贈いただいておりますので2月3日の節分の日にご利用下さい。

■幹事報告 ■ 工藤幹事

- ・余市RC=2/11(水)休会となります。
- ・来る2月28日(土)開催のロータリー創立記念3クラブ合同例会の個人負担金(5,000円)を2月6日例会より正武家事務員にお渡し下さい。当日のプログラムは「音読カップ等授賞者(市内小中学校生徒9名)による朗読」を予定しております。当日の出欠の有無早めにお知らせ下さい。

■委員会・同好会報告 ■

◎国際奉仕委員会 松浦国際奉仕副委員長

- ・米山奨学寄付税額控除に係わる証明書が届きました。会員27名のご協力をいただき厚くお礼申し上げます。また当方のミスで1名の会員の申告が遅延いたしました。今後注意いたします。深くお詫び申し上げます。

◎奥沢村会開催のお知らせ 大倉会員

- ・2月7日(土) 午後6時より朝里クラッセホテルにて開催いたします。送迎バスは小樽駅前午後5時15分発の予定です。

◎花園村会開催のお知らせ 大淵会員

- ・2月6日(金)午後6時より 大和家本店にて開催致します。当日は、今が旬のふぐ会席をご用意しております。

■出席委員会 ■

●平成27年1月30日

会員総数 76名 本日の欠席者 12名
 浅村、石上、角野、佐藤(公)、佐藤(喜)、山田(正)、高木(成)、盛、野村、前川、村越、林

●平成27年1月16日

会員総数 74名 出席摘要免除者 16名
 病欠者数 0名 ホーム欠席者数 18名
 メーキャップ 1名 純欠席者数 17名
 確定出席率 75.71%

■メーキャップ ■

1/23 山田(正) (札幌東RC)



ロータリーの 広報について

スピーカー 杉江 俊太郎氏
(RI第2510地区広報委員会委員長・小樽RC)

●なぜ、今広報が必要なのか

羽部ガバナーは本年度、委員会名を「広報IC委員会」から「広報委員会」と改めました。一般の方々がロータリーをどのように思っているかという集計では、「経済的に豊かな方々の親睦の会」という声が多く、奉仕の活動や精神を学ぶという大切なことが伝わっていないのが現状です。今までは、ロータリーの活動を大きく報道することは控えるべきと考えられていたこともあり、広報活動があまりなされていませんでした。ロータリーを理解していただき、素晴らしさを伝える必要があるということでの名称変更です。

昨年、9月14日のロータリーデーに向けて、ポリオプラスをはじめ様々なロータリーの奉仕活動を新聞広告で全道に周知いたしました。

地区各メンバーには数々のご高配を賜りましたあらためましてご厚情にお礼を申し上げます。

地区の広報委員会は、11年振りに復活した委員会で、この10年間でロータリーの会員数は右肩下がりで減少しやっとここ1・2年で歯止めがかかる状況であります。この10年間の経済状況が厳しいことが外的要因の一番だと思えますが、ロータリーの内的要因として上げられたのが「公共イメージと認知度の向上」であります。

例えば世界ではポリオ撲滅に対する長年にわたる取り組みは、現在まで最大規模の民間部門支援による世界的保健推進活動となっています。このような素晴らしい活動をしてきているのに、最近RIが世界中で実施した調査によると、ロータリーと言う名前や言葉は知っているけれども、世界で良いことをしている団体だという認識を持っている方は殆どいないという結果が得られています。このイメージの差を埋めるためにロータリーは世界の人に知ってもらわなければならないのです。

●今までのロータリー広報の考え方

- ①1923年の方針声明「ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならない」という意味の解釈。
- ②職業奉仕は職業を通しての個人奉仕であり自慢すべき(広報)すべきことではない。
- ③「陰徳あれば必ず陽報あり」という伝統が日本にある。善行を自らPRすることは肌に合わない。

- ④ロータリー哲学の奥は深いものであり、理解するには時間がかかるものだ。
- ⑤以上のような考え方もあって報道機関関係者とのコミュニケーションも薄く、また報道側としても記事になりづらい活動が多い。

●これからの広報の考え方

～クラブにおける広報活動とは

1.会員自身による広報

ロータリアン自らがロータリーとロータリークラブをより良く理解し、それを他の人に伝え、知ってもらう、即ち、全てのロータリアンが広報マンになる、これがロータリーの広報の原点。

2.クラブの広報

- ①ロータリーの活動を正しく伝えることの出来るロータリアンを育ていく広報。
- ②マスコミとコミュニケーションをとり積極的に取材を依頼出来る体制。
- ③クラブ独自の広報イベント、地域の祭典などへの参加による広報、広報パンフレットや冊子の配布、インターネットを使った広報を推進。
- ④ガバナー月信やロータリーの友から情報を得るとともに投稿などの活用。
- ⑤そのためにクラブは、全員参加の奉仕プログラムをいかに創っていくかが課題。

●これを私なりに分かりやすく要約すると

- ①広報広報とあまり大段に構えるのではなく、ロータリアンはロータリーをもう少し理解を深めるよう努力しましょう。クラブはそのためのプログラムを用意しましょう。
- ②地域のかたがたに分かりやすく伝えましょう。
- ③素晴らしい奉仕活動をより大きな輪で実施しましょう。
- ④マスコミとの連携強化に努めましょう。

記者に聴いた記事になるためのテクニック

1. 記者はロータリーの活動を全く知らないことを前提に、記者とのコミュニケーションを深めましょう。記者も人です。親しい人から頼まれれば厭とは言えない。
2. マスコミ関係者がロータリアンでも記者に直接ロータリーの情報をどんどん流しましょう。年次計画書・組織・会報・奉仕活動など記事にならなくても情報を流すことで理解が深まる。
3. 地域の方々が興味を持ちそうな働きかけをしましょう。

●まとめ

ロータリーの広報とは、自ら事業を起す委員会ではありません。まずは奉仕活動を中心としたロータリー活動が活発に企画・実施されることが大切であります。その活動を広報活動で少しでも活かすことで、私達ロータリアンと社会の方々とのイメージのギャップを埋めていき、多くの理解者と協力者を増やしていけるような活動が大きな役割ではないでしょうか。そのためにはロータリアンが、今まで以上にロータリーの理解を深め、その知識と経験を活かして周りの人々に分かりやすく伝えていくことが必要なのではないでしょうか。